



双松会会報

第46号「双松会」通巻50号「松高北高同窓会報」通巻50号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.23

普通科34期・理数科13期

錦織 正恵
内藤 永嗣

還暦グループライン

昭和57年度卒業の、普通科34期、理数科13期のみなさん、お変わりないですか。お盆の盛大な還暦同窓会から早一年。お出かけくださったみなさん、ありがとうございます。出席が叶わなかった方の目にこの会報が留まって、少しでも懐かしんでいただけたら嬉しいです。

私たちの学年は、「くにびき国体」を高校3年生で迎えました。そのため、変則的な日程で学校行事が行われました。中でも例年9月初頭に行われていた学園祭は、9月中旬に夏季国体が行われる関係で、体育祭を5月11日、文化祭を文化部発表会として、秋季国体終了後の11月6日に行うという日程でした。選手や大会役員、応援団として関わった人たちも多かったのではないかと思います。

在学中にくにびき道路ができ、松江駅が高架化されて電車の特急「やくも」が走るようになりました。赤山に移転したばかりのピカピカの校舎が嬉しい3年間でした。

まだ土曜日に半日授業があり、午後の部活のあと、殿町に並んでいた、今井書店、千鳥書房、スイングレコード、第一産業(現エディオン)あたりをうろうろするのを楽しみにしてい

ました。もうどれも、お店としては、なくなりましたね。

そんな私たちも卒業してから40年が過ぎ、「他の学年の人たちは還暦同窓会やつちようけんやらな」という声が上がったのが1年前の夏。そこから出身中学ごとに世話役をしてくれる人に声をかけて、幹事を増やして会合を重ねていきました。

これまで部活やクラス単位、恩師を囲んでの少人数での集まりはあったかと思いますが、学年全体に呼びかけて開催する同窓会は12年前にやったのが最初で最後で、それ以来です。日時と場所が決まって、前回12年前の住所に案内状を送りましたが、たくさんのはがきが宛先不明で戻ってきました。中には、「亡くなりました」というご家族からの返信もあり、開催が遅れたことに対し、申し訳ない思いでいっぱいでした。

当日は前回を上回る150名超の参加があり、会が始まる前から廊下や会場で談笑が始まり、和やかな雰囲気になりました。3名の恩師も出席して、会に花を添えてくださいました。

会の中で特別な催しや趣向は一切なく、ただひたすら飲んで食べて話してもらいました。中締めの後、なんと二次会も引き



続き同じ会場でそのまま続行。話は尽きないのでした。グループによつては三次会四次会、五次会までやったところもあったとかなかったとか。参加したみなさんお疲れさまでした。

今回の会を開催するにあたり大いに助けになったのが、私たちが高校生の時にはなかったSNSでした。住所も電話番号も動め先もわからなくても、ラインやツイッター(X)でつながっている人からどんな情報が入ってきて、広がっていきました。いまだきの高校生たちは、卒業する時にグループラインを作るのだそうですね。中学校によつては還暦でもグループラインを作っているところもあって、そういうところは把握が格段に速くてスムーズでした。

ということ、なんと「松江北高昭和57年度卒業生」という170人超えのグループラインが立ち上がりました。同窓会の欠席連絡や当日会場で撮影した

写真の投稿や共有が目的で、会の終了後削除するつもりでしたが、今現在まだ存在していて、近況や帰省の報告などが時々上がっていて、今でも同窓会が続いています。

今回の欠席理由で、体調不良と介護が多かったのも、60を超える方と致し方ないと感じました。参加してくれた人の、「次出られるかわからんけん。」「今回が最後だから。」という声もうなずきました。どうぞ同窓生のみなさん、これから先もお互いにほちほち、まめに過ごしていけたらいいですね。まだグループラインに参加していない同窓生の方は、のぞいてみてくださいね。

最後に、この会の開催のために、立ち上げから会計の締めに至るまで、文字通り東奔西走してくれた故2R野津栄くんに、心より御礼申しあげます。本当にお世話になりました。ありがとうございます。(合掌)





創立150周年を 迎えるに当たり

会長 櫻井 誠己
高20期

双松会の皆様には平素より本会に対しご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

一昨年の7月の幹事総会におきまして伝統ある双松会の会長を仰せつかりこの2年あまりの間、東京はじめ各地会員の皆様と交流をさせていただき有意義なひと時を過ごすことが出来ました。また故郷への思いや昔の懐かしい話をお伺いするにつけ改めて双松会のつながりの深さに感銘を受けたものであります。

さて、松江北高校は、明治9年に教員伝習校内に変則中学校が創設されて以来、令和8年度をもって150周年を迎えることとなりました。この4月より記念事業実行委員会を立ち上げ準備に取り掛かっているところであります。

松江市殿町の島根県警本部の入り口付近に、小泉八雲ゆかりの地。として島根県尋常中学校、及び県庁跡地、小泉八雲が明治23年9月から24年10月まで英語教師として教鞭を取り、昭和51年にヘルン校舎は市民に惜しまれ取り壊されたとの案内板が立てられています。NHKの朝ドラ「ばけけ」が始まり、改めて150周年のスタートがこの地であることを認識した次

第であります。21年間の殿町時代、そして第一期赤山時代の53年間、西川津時代の28年間、第二期赤山時代が来年で48年間、150周年の変遷であります。

この150周年を迎えるあたり、母校の一層の発展を期すると共に生徒諸君に感動して貰える様な記念事業を実施することと致しています。

第一弾としてこの9月26日に劇団四季による「赤毛のアン」の公演を島根県民会館において行いました。劇団四季には3名の北高卒業生が在団されており、全国を飛び回って活躍をされているそうです。なかなかハードルの高いなか公演決定まで関係者の皆様のご努力により実現する運びとなりました。劇団創設者の浅利慶太氏の「劇団四季は感動を売る」が生徒諸君に伝わったのではと思っています。

第二弾がこれは教育環境の整備を行い心豊かな人材の育成を行うことを目的とする事業としました。老朽化した校舎を単に保全するのみではなく、本来県の施設更新対象ではない物品の更新や、県で整備する標準的な水準を超える施設・設備の更新を含む教育環境の整備を学校と連携して進める内容としてい

ます。
また来年の秋には記念式典、祝賀会も開催する予定であります。
記念事業実行委員長として



これまでの縁と 次の半世紀に向かつて

校長 中西 正実

【縁と】
の春の着任当初から、創立150周年に向けて双松会の役員の方々と近しくお話をする機会が多くあります。ある時、県外出身の私が校長となつたことについて「運によるところが大きいです。」と私からお話をしたところ、ある方が「ご縁もあります。」とおっしゃってくださいました。

実は、私が「運」と口にしたのは、ビジネスの世界で著名な方が「今ある立ち位置は、能力や実力以上に所詮は運である」とを忘れてはいけません。」という話をされていたのを以前に耳にして印象に残っていたからでした。ただ、その時に「縁も大事」とおっしゃっていたことは、私の中に素直に入りま

した。
思い起こせば今日に至るまでに多くの先輩教員に出会い、また大きな刺激を受けてきました。その中には、北高にゆかりのある先生方もたくさんいらっ

150周年事業が意義あるものになるように取り組んでいきま

すので皆様のご協力をお願いいたします。

しゃいました。初任校の浜田高校では、後に平成11年から3年間本校で校長として務められた鞍嶋弘明教頭先生(当時)から「教師たるもの何でもよいから生徒をギャフン(参った)と言わせるものがないとダメだ。」と指導を受けました。3校目の赴任校である大社高校では後に平成17年から本校で校長をされた佐藤健治校長先生(当時)から「北高にはすごい教員がいっぱいいる。あなたも北高で大いに鍛えられなさい。」と叱咤激励を頂戴しました。

そして平成18年には、後に本校で平成22年から校長をされた勝部昌幸校長先生(松江女子高・当時)の指導を受けながら、島根県で開催した生物教育の全国大会で事務局長として当たらせていただきました。何とその28年前の昭和53年に行われた前回大会で事務局長をされていたのが、松本幹彦先生(現双松会顧問)でいらつしやうて、当時一度だけお目にかかり激励

を頂いたことは今でもよく覚えて

ています。
その後何度か県教育委員会

勤務をする中でも、河原一朗先生をはじめ歴代校長先生からご指導をいただきました。このように、不思議な「ご縁」がいくつも重なって、今の仕事に取り組んでいることに感謝とともに感慨深く思っています。

【次の半世紀に向かつて】
創立150周年を迎えるにあたって、そして次の半世紀に向かつては、ますます学校教育を取り巻く状況が目まぐるしく変化していくことが声高に叫ばれています。
その昔に京都で創業し500年の歴史をもつある老舗和菓子店は、今日では東京にモダンな本店を構え海外にも店舗を展開するなど、「伝統と格式」を重んじながらも時代の変化に柔軟に合わせた取組で国内外から高い評価を得ているとのこと

です。その和菓子店の歴代当主や社長は、菓子作りや経営を考える上で原点に立ち戻るときは、古くから受け継がれたお菓子の絵図(見本帳)を眺めるといふ話をずいぶん前に聞いたことがあります。
私として教職員一同、次の半世紀に向かつて多くの卒業生方や諸先輩先生方が築かれてきた歴史と伝統を大切にしつつ、これからの時代に対応できる人材育成にしっかりと取り組んでまいります。今後とも皆様のお力添えとご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

特集

創立一五〇周年記念事業

「半世紀に一度の想いをお寄せください」

「松江北高校は二〇二六年に創立一五〇周年を迎えます。」

この文言を校内で目にすることも増えてきました。一五〇年の歴史を湛える本校は、その歴史を伝え、伝統を次代へと繋ぐとともに、次の一五〇年を築くべく、現代にふさわしい学び舎へと進化していかなければなりません。

本特集では、まず、歴史を伝え伝統を繋ぐ事業として、「十年史」の刊行、西川津校舎記念碑の整備、起雲館資料室の整理について紹介します。次に、次世代に向けた事業として、校内環境の整備について紹介します。また、創立一五〇周年記念に係る各種行事および募金についても紹介します。

「十年史」の刊行

昭和五十一年、創立百周年記念事業として浩漣な「松江北高等学校百年史」が刊行されました。本校の校史が編まれたのはこれが初めてでした。それ以降は十年ごとに「松江北高等学校十年史」が編纂されています。このたびの創立一五〇周年記念事業においても「十年史」が計画されており、令和九年の刊行を予定しております。

西川津校舎記念碑の整備

前身の県立松江高等学校の北校舎が南校舎へと統合された昭和二十五年から、再び赤山に移転する昭和五十三年までが本校の西川津校舎時代です。この西川津校舎の跡地は、その西半分が県立プールに、東半分が松江市総合体育館となりました。現在は駐車場やイベント会場として利用されている県立プール跡地の一角に、西川津校舎の記念碑があります。このたびの創立一五〇周年記念事業では、この記念碑の敷地内での移転・整備を計画しております。

起雲館資料室の整理

起雲館（卒業生会館）の三階には二つの資料室があります。階段を上ってすぐの双松会資料室には、小泉八雲をはじめとする旧教職員関連の資料や創立百周年記念行事の記録などが展示されています。もう一つの資料室は、和室と茶室を挟んで廊下の奥にあります。この資料室は、旧制松江中学の起雲館に設置されていた資料室にちなんで「芝蘭室」と呼ばれています。ここには明治期からの教科書や「学友会雑誌」「紅陵」「松江北新

聞」等の刊行物、校舎や部活動関連の写真など、数多くの資料が収められています。

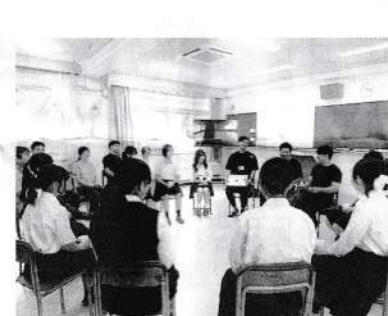
これらの資料についてはこれまでも分類・整理が進められてきましたが、令和七年より、本校舎図書館のシステムとの統合を図り、データベース化を進めています。また、資料の長期保存や公共的な利用に資するために、デジタルアーカイブ化も検討しています。

なお、起雲館の雨漏り（後述）によって、芝蘭室の資料の一部が水損・カビ被害を受けました。専門の研究者の方々の協力を賜り、資料を保護することができましたが、資料室・芝蘭室ともに空調設備がなく、今後も資料保全のための環境整備を行う必要があります。

校内環境の整備

次世代に向けた事業として、音楽室や美術室、視聴覚室、図書館等の改修も計画しております。先頃、教職員、校外の専門家、在校生からなるプロジェクトチームを結成したところです。在校生からは十三名の参加がありました。今後、ワークシヨップや話し合いを重ね、生徒の意見を取り入れながら、生徒が活動しやすい環境づくりを進めてまいります。また、起雲館の老朽化への対応も必要となっています。令和六年一月には、屋上防水シートの破損により、建物内

に雨水が侵入して四階研修室の天井の一部が落下し、各所で漏水が発生しました。漏電やエアコン等の設備の損傷もあり、購買・学食は一時営業休止、補習科教室も一時的に本校舎に移転しました。双松会・紅陵会の多大なるご支援を賜り、早期に修繕を行うことができましたが、老朽化への対応は依然緊急性を失っておりません。



各種記念行事

創立一五〇周年に先立つ記念行事として、令和七年九月二十六日に、本校卒業生も複数在籍している劇団四季によるミュージカル「赤毛のアン」の公演が催されました。原作は言わずと知れたモンゴメリの名作小説「赤毛のアン」。令和六年にはモンゴメリ生誕一五〇年を迎え、令和七年には日本での四十六年ぶりのアニメ化となる「アン・シャリー」が放送開始されたことが話題となりました。劇団四季の「赤毛のアン」も、

一九八〇年の初演以来、四十年以上の長きにわたって愛され続けています。想像力の翼を広げて心豊かに成長するアンの姿に、生徒は勇気と感動を与えられたことと思います。



このほか、記念行事として、記念式典および祝賀会が令和八年十月に予定されています。詳細は双松会HPや次年度の会報でお知らせします。

寄附金について

創立一五〇周年に際して、卒業生の皆様にご寄附をお願いしております。このたびは、一般寄附に加えて、税制上の優遇措置の対象となる篤志寄附の開設を現在申請しております。寄附の受付開始は令和八年四月を予定しております。寄附の方法等、詳細は双松会HPや次年度の会報でお知らせします。皆様の半世紀に一度の熱い想いをぜひお寄せください。まずようお願ひ申し上げます。

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長
森岡 正士(高31期)

昨年の第69回総会は11月9日に行い、学生を含む若手が多く参加し100名を超える盛況となりました。山崎山陰合同銀行頭取(1977年卒)の講演と、徳安諒さん(2020年卒)のテノール・山田博子さん(1985年卒)のピアノを参加者に楽しんでもらいました。ご参加・ご支援をして頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

今年の第70回総会は11月15日(土)12:00から昨年と同じ内幸町の日本プレスセンター10Fレストラン・アラスカにて開催する予定です。講師にはNHKで10月から始まる朝ドラ「ばけけ」で話題の小泉八雲・ハツの曾孫にあたる小泉凡氏に講演をして頂きます。また昨年春の選抜甲子園の開会式で国歌を独唱した門脇早紀さん(2024年卒)のソプラノとお兄さんの勇樹さん(2019年卒)のピアノを予定しています。

今年の新しい取組として、福引大会を日比谷しまね館のご協力を頂いて、島根・松江由来の商品を空くじ無しでご提供します。

年に一回の総会のみならず、

「松江／島根に関する明るい情報」や、「松江北高の現役学生の活躍ぶり」に加えて、「東京双松会員の近況報告」を東京双松会の皆さんに発信していきますので、引き続きよろしくお願ひします。

近畿双松会

近畿双松会 事務局長
宍道 弘志(高31期)

近畿双松会では毎年、会員相互の親睦を図るため落語鑑賞会、文楽鑑賞会、ハイキング、宝塚歌劇鑑賞会などの行事を開催しています。関西には上方落語の定席「天満天神繁昌亭」や、大形浄瑠璃の殿堂「国立文楽劇場」、そして宝塚歌劇団の本拠地「宝塚大劇場」があり、行事を通して関西の文化・伝統に触れる機会ともなっています。ハイキングも昨年度はNHK大河ドラマ「光る君へ」にちなんで紫式部にゆかりのある石山寺を訪れるなど、歴史や文化に関連するテーマを設けて実施しています。これらの行事はメールマガジン(ホームページにも掲載)で案内していますので、近畿地区の方もタイミングが合えば、ぜひご参加ください。

今年の近畿双松会・総会は11月29日(土)に開催予定です。この活動を将来世代に引き継いでいけるよう、中堅・若手会員の参加拡大に引き続き取り組みまいります。

これから情報も逐次、

ホームページ、メールマガジン、LINE@で発信していきますので、ご注目をお願いいたします。メールマガジン、LINE@が未登録の方はぜひ受信手続きをお願いいたします。(二方だけでも可)

お問い合わせ先:
専用アドレス:
master@kinki.soushoukai.org
http://www.kinki.soushoukai.org

近畿双松会ホームページ

QRからもアクセスください。

「メールマガジン」登録

QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。

専用アドレス:
kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

「LINE@」登録

QRからお名前、卒業期を登録ください。



近畿双松会ホームページ



近畿双松会

米子双松会

米子双松会 事務局長
中西 秀夫(高15期)

3月16日、双松会幹事長、松江北高校長を迎えて総会を開催しました。役員改選の年

でしたが、全役員再認されました。講演は、「フレイル予防」高齢者がいつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう、フレイル状態(健康と要介護の中間の状態)の発生と予防について、米子市フレイル対策推進課よりお話をいただきました。

恒例の納涼会は、7月27日に、双松会櫻井会長、景山幹事長、松江北高中西校長を迎え開催しました。また、安来双松会からも2名の参加をいただきました。講演は、今春鳥取大学医学部長に就任された永島英樹氏(松江北高57年卒・理数科12期)より、米子市西町の鳥取大学附属病院の建て替え基本構想について、隣接する湊山公園の自然環境を取り入れた、患者や市民が憩える「ホスピタルパーク」を目指しての改築計画の策定に乗り出したことを拝聴しました。

ゴルフ部会は、やや参加者が少なくなりましたが、毎月大山周辺ゴルフ場にてコンペを開催しています。

旅行部会は、10・11月頃で計画中です(8月現在)。

米子双松会にとって嬉しいことがありました。納涼会より新入会員(中堅・若手)が5名もありました。今後とも米子市周辺在住者、勤務者の入会をお待ちしています。

連絡先

米子双松会事務局 中西秀夫
〒689-1340

米子市淀江町淀江771
TEL&FAX
0859-5612315

広島双松会

広島双松会 幹事長
渡部 賢(高36期)

本会は慣例として毎年11月の第二土曜日に総会・懇親会を開催しております。令和6年度も、母校、双松会本部、島根県からご来賓をお迎えし、広島市中心部にあるTKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口にて開催いたしました。30余名の同窓生が久しぶりに再会し、楽しい時間を過ごすことができました。令和7年度は、より多くの方にご参加いただけるよう、幹事団一同意気込み、次のとおり行事・イベントを企画しております。本会報をご覧いただいた広島在住の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

今後の予定

11月8日(土)

総会・懇親会(TKPGA
デンシティPREMIUM
広島駅北口)

2026年7月

納涼懇親会(詳細未定)

お問い合わせ先

広島双松会幹事長 渡部 賢
〒733-0876

広島市西区高須台3-6-10
TEL&FAX
082-273-8204

e-mail

tskapa2002@sky.megagc.jp

通信制双松会

伊東 健治 会長

昨年10月、野津裕前会長の勇退に伴いまして、通信制双松会は新役員体制にてスタートしたところです。私事ですが、まだ仕事を持っていました、専心して会のお世話が出来ますか不安ですが、役員の皆様と共に進めていく覚悟です。今年度の総会は、事情によりまして年も新たな年、令和8年1月に次の内容にて開催します。卒業生の皆様方お誘い合わせの上、多数参加されますようお願いいたします。

総会、懇親会の御案内

日時 令和8年1月24日

午後4時30分より

6時30分

場所 サンラボーむらくも

0852(21)2670

会費 7500円

参加申し込みは、住所、氏名、電話番号、卒業年を記入して、ハガキで令和8年1月15日までに左記に申し込んでください。多数の参加をお待ちしています。

送付先

〒69910622

出雲市斐川町名島2-1

伊東健治宛

(連絡先)

090(7136)8190

北高生の活躍

島根県高等学校総合体育大会

男女総合5位

(男子総合13位)(女子総合3位)

5月下旬から6月上旬にかけて第63回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第5位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。7月下旬から中国地区で開催された全国高校総体(インターハイ)、またブロック地区大会(中国大会)に出場したチーム・選手を紹介します。

全国大会

男子ボート部

3年 本田 健太

女子ボート部

3年 荒河万優子

弓道部

2年 橋本 葵

登山部

2年 小瀧 翔太

男子団体

3年 山口 智貴

女子団体

2年 萬治 慎平

水泳部

1年 杉浦 亘

中国大会

女子卓球部

3年 福庭 笙子

陸上競技部

1年 近藤 美緒

男子ボート

3年 本田 健太

女子ボート

3年 荒河万優子

弓道

2年 橋本 葵

男子テニス部

2年 小瀧 翔太

女子ソフトテニス部

1年 山口 智貴

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

男子卓球部

3年 福庭 笙子

女子卓球部

3年 福庭 笙子

女子バドミントン部

3年 白石 もか

水泳部

2年 佐々木 紗

レスリング

1年 高村 諒雄

文化部の活躍

県内予選を通過し、7月下旬に香川で行われた全国高等学校総合文化祭に出場する部を紹介いたします。

演劇部

2年 金田 瑞希

写真部

3年 野津 涼瑛

放送部

3年 高田 陽翔

自然科学部

1年 金津 拓海

囲碁部

2年 森脇 健弘

百人一首かるた部

3年 春木 菜子

その他の全国大会

水泳部 ジュニアオリンピックカップ

競泳競技

AS

百人一首かるた部

全国高校選手権

団体戦

3年 平塚 留奈

2年 榎本 一花

2年 春木 菜子

2年 高木 美緒

1年 古瀬 春乃

2年 沖本 愛菜

2年 梶谷 京加

2年 西村 理沙

2年 森脇 健弘

2年 村川 律斗

2年 石飛 春太郎

2年 西村 理沙

2年 梶谷 京加

2年 沖本 愛菜

2年 古瀬 春乃

2年 高木 美緒

2年 春木 菜子

2年 榎本 一花

2年 平塚 留奈

2年 森脇 健弘

「世界の人たれ北高生！ 基金」及び近畿研修の 活動報告

○世界の人たれ講演会

令和6年6月17日、鳥根県民会館大ホールにて「世界の人たれ」講演会が盛大に開催されました。本講演会は、多岐にわたる分野で活躍されている本校卒業生を講師として招き、地域・日本・世界の現状を理解し、将来の地域社会・日本社会・国際社会に貢献する意識や態度を育むことを目的としています。

今回は、人間文化研究機構研究員の岡本尚子氏（高45期）にご登壇いただきました。岡本氏は現在、国立民族学博物館（みんぱく）に所属され、フランス文学や中東地域文学の研究者として活躍されています。

講演では、「世界とつながる／世界をつなげるグローバル時代を生きるということ」をテーマに、「千一夜物語」の翻訳研究やフィールドワークで直面した資料収集の困難さ、信頼関係を築くことの重要性など、研究活動のリアルな側面や異文化理解の深さについて具体例を交えてお話しいただきました。講演後、生徒たちからは「失敗することを恐れない」「相手に敬意と思いやりを持って接したい」といった感想が多く寄せられ、自身の将来や生き方について真剣に考える機会となりました。

この貴重な経験は、今後の教科指導や進路指導に生かしていく所存です。なお、本講演会の様子は、山陰中央新報や鳥根日日新聞でも報じられました。

○グローバルスタディーズプログラム

令和6年12月24日、28日の5日間、松江北高校の起雲館にて「2024 Global Studies Program」が開催されました。本プログラムは、日本の大学に留学中の大学生・大学院生を指導者に迎え、英語のみでのコミュニケーションによる留学疑似体験を通じて、生徒に世界で通用する英語力と表現力、グローバルな視点と発信力を育むことを目的としたものです。

今回は1・2年生計23名の生徒が参加し、多様なテーマでの集中的なディスカッションやプレゼンテーションを展開しました。参加者からは「想像以上に楽しく学ぶことができた」「大変だったものの、非常にやりがいがあった」と好評で、全員が修了証を手に入れました。

この研修で、生徒たちは異文化理解を深め、英語での発信力を大きく伸ばしました。最終発表会では、一人ひとりが



自信に満ちたプレゼンテーションを披露しました。その表情からは著しい成長と充実感がうかがえました。双松会ホームページを通じてZoomライブ配信で会員の皆様にもその様子をご覧いただきました。なお、ダイジェスト動画が双松会のHPに掲載されております。



○グローバルリーダー養成プログラム

令和7年3月末から4月にかけて、「第10回グローバルリーダー養成プログラム」に本校の生徒5名を含む35名の高校生がアメリカ・ボストンへ派遣されました。このプログラムは、生徒が自己の在り方や生き方への自覚を深め、価値観を広げ、将来のより良い進路選択を考える貴重な機会となりました。

研修では、ホームステイを通じて異文化を肌で感じ、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）を訪問し、現地の大学生や日本

人留学生との交流を深めました。ボストン美術館での鑑賞やMITでのワークショップなど、多岐にわたる活動を通じて、生徒たちは実践的な英語力を磨き、グローバルな視点を養いました。

参加者全員がプログラムに「満足」または「どちらかといえば満足」と回答し、「たくさん場所に行けた」「多くの人と英語で話せた」「貴重な体験ができた」と感想を述べています。特に、リスニング力の向上や、言語の壁を越えて繋がることの難しさや面白さを実感し、積極的に質問する姿勢やチームワークの大切さを学ぶことができたようです。多くの生徒が「もっと英語を勉強したい」「また海外や留学に行ってみたい」と感じ、将来の目標を持つ上での参考になったと回答しており、この研修が多面的な成長を促したことがうかがえます。

なお、以上3つの活動は、双松会の「世界の人たれ北高生！基金」より多大なご支援を賜っております。心より感謝申し上げます。

○近畿研修報告

令和6年度の近畿研修が10月9日、11日までの3日間、2年生普通科の生徒234名を対象に実施されました。本研修は、生徒たちが自己のあり方・生き方への自覚を深め、価値観を広げ、将来の進路選択について考える機会とすることを目的としています。

初日の夜には、近畿地方の大学に在学中の本校卒業生を

招き、大学生活や進路決定、受験対策に関する現実的な話を聞くことができ、今後の高校生活を充実したものにするために大いに参考となりました。生徒からは「大学と高校の違いがわかった」「実際の卒業生の体験談で説得力があった」「今から何をすべきか知ることができた」「鳥根を離れて一人暮らしをする様子を聞けた」「多種多様な進路を知ることができた」といった感想がありました。卒業生ならではの具体的な助言が得られたようです。

また、最終日の大学見学では、近畿圏の6つの大学を訪問し、キャンパス見学や特別講義を通じて、高校卒業後の進路をより具体的にイメージする機会となりました。特に大阪大学では、本校卒業生の安達宏昭先生（高43期）と佐々木淳先生（高45期）から直接講義を受ける機会もあり、生徒たちは先輩方の経験をまじえた講義から、自身の将来について深く考え、3日間の充実した研修を終えました。



本年度の進路状況

進路部長 大峠 昌裕
(理数科23期)

昨年度とは違い全受験生が新課程での受験となった2025年度大学入学共通テストの志願者数は、49万5171人であり、7年ぶりの増加(前年と比べて3257人増)となった。これは18歳人口が約106万人から約109万人へと増加した影響であろう。ちなみに1990年頃のピーク時の18歳人口は約205万人であり、そのころと比べると約53%である。2026年の18歳人口は約110万人とされているので、今年度の受験者数は大きく変動することはないと思われる。しかし、その次の年からは18歳人口が毎年のように減少していくと推定されている(2035年は約96万人)ので、受験者数も減少していくと想定される。さらに受験者数の推移とともに大きく変化してきたのが、志願者数における既卒等志願者数の割合である。1990年頃には志願者全体の40%近くを占めていた既卒等志願者が、2025年度入試においては約14%の約6万9000人であった。全国的な最近の受験生の傾向ではあるが、浪人を回避したいために「強気より堅実」という。安全志向。にかじを取る受験生が増えている。2025年度入試で顕著であったのが公立大学の志願者増加であり、手堅い受験のために国立大学より公立大学へ、そして、前期・後期と併願できる中期への出願が増えたことから、一校でも多く受験機会を増やして合格を得たいという受験生心理の表れであろう。また、私立大学における年内入試と言われる学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO入試)の募集定員の拡大に伴う志願者数の増加や共通テストを利用した入試方式での併願校の増加も、安全志向。の表れである。

あろう。実際、大学入学共通テストの平均点がアップ(満点が違うので得点率で比較した場合、文系が59.6%から62.0%へ、理系が62.1%から63.3%へ)したのだが、それに伴い合格ラインが上がるかと想定したのか、東京大学(東京大学は理数科を除く)で2段階選抜の予告倍率を引き締めたことにより、志願者数が大きく減少(前年並みにとどまり、ブロック大学を含めた準難関国立大学の志願者数は前年から増加した。また、主要私立大学の志願者数も増加した。大学受験において、今後もこういった、安全志向。の傾向は続くかもしれない。大学受験の話題から少しそれるが、島根県における高校入試が現在の1年生が受験した昨年度入試から大きく変わった。それは、県内の公立高校における推薦入学者選抜制度を廃止し、定時制・通信制課程を除くすべての全日制学科において総合入学者選抜制度を新設するようになったことである。さらに、総合入学者選抜における募集人員は、入学定員の10~40%程度までの範囲で各学校が設定し、出願資格の基準および選抜検査の方法も各学校が設定するようになったため、高校によって大きく違いが出た。また、数年前に松江市内の普通高校3校の校区制が撤廃され、この総合入学者選抜においては、さらに松江市内の普通高校3校に出雲高校を加えた4校の普通科において地域外からの合格者数の制限を撤廃した(一般選抜および第2次募集において従来通り地域外入学制限あり)。各大学が大学入学者選抜において年内入試の枠を増やしつつあり、さらに高校入学者選抜においても一般選抜より早い時期に行われる特別選抜の枠が増え、入学者選抜の変革が起ころいつつある。

本校生徒の受験結果については、国立大学合格者数は現役生と既卒生を合わせて延べ179人で、昨年から23人の増加だった。全国の受験生の傾向として言われている安全志向は、前期日程においてはあまり感じられなかったが、後期日程は浪人回避の受験傾向を感じた。とは言え、すべての受験結果が出揃い、進路目標達成に向けてもう一年間をかけて勉強する道を選んだ生徒が18%おり、この割合はここ数年と変わらなかった。昨年度の受験を振り返り、変化を顕著に感じたのが学校推薦型選抜や総合型選抜での受験をする生徒数が約100人と、ここ2、3年は約70人であったのが一気に増加したという変化であった。特に、島根大学と島根県立大学、私立大学の総合型選抜を受験した生徒が増加した。これは全国的な傾向と同じであった。受験生にとっては、受験機会が増えることにより無条件で可能性が上がると思われている人が多いからではないかと想像している。実際には、受験機会が増えることは事実であるが、可能性が上がるのはそれに対する備えを十分に積み上げてきた限られた生徒だけである。しかし、今後もこの傾向は続いていくと予想される。具体的な合格実績の話に戻すと、難関10大学の合格者数は19人と昨年より3人減った。特に、東京大学0人(浪人生を含む)、京都大学3人(浪人生のみ)という結果であった。また、準難関・ブロック大学の合格者数は31人と昨年と比較して10人増加した。入学時点からの模擬試験の成績推移を見ると、例年と比較して上位層の成績の生徒が少い状況であり、最難関・難関大に合格できるような生徒を最上位の成績に伸ばすことができなかった。一方で、準難関・ブロック大学に合格できるような成績上位層の生徒が増え、生徒がよく頑張ったと言える。また、国立大学医学部科(自治医科大学および産業医科大学を含む)の合格者数は18人と昨年度より7人増えた。さらに、私立大学の結果としては、早慶上理が11人(前年13)、関関同立が49人(前年53)であり、最近の傾向である地方よりも都市部の大学へ進学する動きが昨年度も見られた。

進路状況

令和7年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和7年4月集計)

卒業生	令和5年3月			令和6年3月			令和7年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	125	26	151	109	19	128	117	31	148
公立大学	37	5	42	23	5	28	28	3	31
私立大学	222	45	267	226	48	274	217	48	265
短期大学	13	1	14	6	0	6	3	0	3
専門学校等	4	0	4	3	0	3	10	0	10
就職	1	0	1	0	0	0	2	0	2
合 計	402	77	479	367	72	439	377	82	459
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス		

本校に入学してくる生徒も多様化しているが、大学入試も多様化が進み、今、大きな変革期を迎えている。年内入試と言われる学校推薦型選抜や総合型選抜、さらにその中でも女子枠の拡がり、また英語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を総合的に測るための英語民間試験の導入など、学力試験だけでなく選抜方法が多面的な評価を取り入れた選抜方法が導入されている。一方で、昨年話題となったある関東の私立大学が年内入試で学力試験を実施し志願者数を増やしたように、年内入試に基礎学力を測る試験の導入を進める大学もある。複雑化する入試制度において個別への対応を求められる時代である。そういった中で本校の進路指導としては、「行ける大学より、行きたい大学」を目標として生徒一人ひとりが確かな力を身につけ、将来の進路を見据えた学びができるような進路選択を実現するために、生徒一人ひとりと向き合いながら進路指導を行っていく必要がある。

編集後記

今年度、母校に勤務するご縁をいただきました。久しぶりに入った校舎は、お世話になった進路指導室等部屋の配置が変わっていたり、テニスコートが第二体育館の時の流れを感じさせるものでした。一方で、4月の始業式の際に校歌の「松江北高ここにあり」のフレーズを歌った瞬間、たちまち懐かしい高校時代を思い出しました。

この夏、本校通信制の卒業生で、通信制の職員でもいらっしやうた坂本育徳先生より一枚の「双松」の絵を寄贈いただきました。同じく通信制のご卒業の金森博先生の遺された作品とこのことで、そこには、私たちが高校時代に毎日眺めていたまじまじの「双松」の姿が描かれています。毎年度、7月8月は帰省にあわせて学校にお立ち寄りいただく卒業生が多い時期です。ご来校いただいた双松会の皆様にも、それぞれの高校時代を思い出すがに、なれば、と正面玄関に飾らせていただきました。

今回の会報は、150周年記念事業を特集しております。さまざまな取組を行い、その様子をホームページ等で双松会の皆様にお知らせいたします。大きな節目のこの機に、それぞれの高校時代に思いを寄せていただければ幸いです。あわせて、生徒たちの、チャレンジを純粋に楽しむ姿、よりよい自らの行動を力強く決めていく姿、学びに真摯に打ち込む姿に変わらぬ北高の伝統を感じていただきたく存じます。最後になりましたが、双松会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。